

## 第 8 回 災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました (2017/8/30)

テーマ：「災害シミュレーションの高度化とその見える化の試み ～計算災害科学の確立に向けて～」  
場所：東北大学医学部（宮城県仙台市）

2017年8月30日(水)に東北大学医学部6号館1階カンファレンス室にて、第8回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナー（主催：災害科学国際研究所 災害と健康ユニット、共催：レジリエント社会基盤ユニット）が開催されました。今回は東北大学災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 地域安全工学研究分野の寺田賢二郎教授が「災害シミュレーションの高度化とその見える化の試み ～計算災害科学の確立に向けて～」と題して講演を行いました。当日は、25名程度の参加がありました。

本講演では、災害予測のための数値シミュレーション技術の現状と課題を整理し、災害時におけるより複雑な物理現象を精度良く再現するための高度化の試みを紹介し、実際の数値シミュレーションに入力する項目や不確定性などを説明しました。続いて X-GIS (eXtended GIS) を用いた計算結果として得られる災害情報が防災の意思決定にも役立つような効果的な見せ方、つまり「災害情報の見える化」について考察しました。ご講演の終盤には、南三陸町や石巻市を例にとり、数値シミュレーション技術を駆使した東北地方における復興の様子を提示しました。さらに、様々な災害科学情報と数値シミュレーションを融合して自然災害のリスク評価や減災に向けた展望を述べました。その後、フロアも交えて数値シミュレーションと医療との融合について活発な討議がくり広げられました。

次回、第9回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーは9月20日(水)に、東北大学災害科学国際研究所災害リスク研究部門 広域被害把握工学研究分野の越村俊一教授による講演を予定しています。



寺田賢二郎 教授



会場の様子